

## インターバンクの声（2017年6月6日）

先週末、予想を下回った米雇用統計の発表後に1円ほど円高にスライドした円相場だが、昨夜の海外市場では東京市場の高値・安値よりもさらに狭いレンジ内での取引に終始した。

とにかく昨日は皆が注目するような相場材料がなく、ディーラー達も年に1回くらいは市場が反応することもある米ISM非製造業景況指数や非農業部門の生産労働性を確認するだけだった。今朝伝えられている昨夜の海外市場の様子を伝えるニュースには、ISM非製造業の弱めの結果にドル売りが強まったなどと報じているが、ニューヨーク時間を担当しているディーラーによると、「指標に反応したような雰囲気はほとんどなかった」とのこと。

先週末の水準から100ポイント超上昇している豪ドルについては、午後に発表される豪州準備銀行(RBA)金融政策委員会の政策発表が気になるが、今週は8日の欧州中央銀行(ECB)理事会、英下院議会選挙、 Comey前FBI長官の議会証言が注目されるイベントだ。今日、明日も相場が大きく動く可能性は小さいようだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。